

## 中核市サミット鹿児島宣言

中核市は、平成8年の制度創設以来、社会情勢の変化に対応しながら、地域の中核的都市として、また最も住民に近い基礎自治体として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

我が国では、人口減少や東京一極集中傾向の加速化により、地方経済の縮小や都市の衰退が危惧される中において、私たち中核市には、それに歯止めをかけるべく地方創生の実現に向けて取り組むとともに、その先にある“豊かさ”を率先して創り出していく役割が求められています。

このような考えのもと、本サミットでは、「地方から創る“豊かさ” ～次代の『まち』・『ひと』・『しごと』づくり～」をテーマに、「スポーツ」、「若者活躍」、「新産業創出」に焦点を当てて協議を行い、次のとおり、全国の中核市が連携し、課題解決に向けて取り組むことといたしました。

- 1 中核市は、交流人口の拡大等による地域活性化を図るため、「する・みる・支える」といったスポーツシーンに対する市民の関心を高めるとともに、官民が連携し、魅力あるスポーツイベントの開催や施設整備に取り組むことにより、都市の個性を生かしたスポーツによるまちづくりを推進します。
- 2 中核市は、地域の活力を維持・強化するため、若者を中心とした異世代・異業種の交流や、新たな手法、様々な分野における産学官の組合せなどにより、若者が生き生きと主体的にまちづくりに取り組み、その効果が周りにも波及していく、人材育成を通じた地域づくりを推進します。
- 3 中核市は、地域経済の活性化と雇用の拡大を図るため、成長性の高い分野における創業、新事業などの取組を支援するとともに、大学や研究開発機関、地域内外の企業等との産学官連携の取組を進めることにより、地域の特色を生かした新たな産業づくりを推進します。

平成30年4月に予定されている6市の中核市移行により、全国の中核市54市の人口は2千万人を超え、その存在感がさらに増すとともに、より一層大きな役割が期待されます。

私たち中核市は、その期待に応え、ともに連携協力し、切磋琢磨し合いながら、以上の取組の推進を通して、地方創生の実現とその先にある“豊かさ”を創り出し、全国に発信していくことを、ここに宣言します。

平成29年10月26日  
中核市市長一同